

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-176834

(P2021-176834A)

(43) 公開日 令和3年11月11日(2021.11.11)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 K 33/06 (2006.01)	A 6 1 K 33/06	4 C 0 8 6
A 6 1 P 43/00 (2006.01)	A 6 1 P 43/00	1 2 1
A 6 1 P 31/16 (2006.01)	A 6 1 P 31/16	

審査請求 有 請求項の数 2 書面 公開請求 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2021-49269 (P2021-49269)	(71) 出願人	520246423
(22) 出願日	令和3年1月29日 (2021.1.29)		鳥山 朋美
			静岡県静岡市葵区沓谷3-2-26
		(72) 発明者	鳥山 朋美
			静岡県静岡市葵区沓谷3-2-26
		Fターム(参考)	4C086 AA01 AA02 HA04 HA17 HA24 MA02 MA04 MA52 NA14 ZA59 ZB33

(54) 【発明の名称】 塩化マグネシウムと硫酸マグネシウムを一定の比率範囲に混合したマグネシウム塩組成物及びその製造方法

(57) 【要約】

【課題】本発明は、ウイルス性の風邪などから難病まで、人の病気を治療する為又は殺菌剤としてのマグネシウム塩組成物及びその製造方法を提供する。

【解決手段】本発明のマグネシウム塩組成物を製造するには、重量比で、塩化マグネシウム対硫酸マグネシウムが1, 0 : 0, 6 3 5を中心として、0, 2 ~ 0, 9の比率にする。一例として、次の2例がある。

- 1 塩化マグネシウム六水和物と、無水硫酸マグネシウムを混合する方法。
- 2 塩化マグネシウム六水和物と、硫酸マグネシウム七和物を混合する方法。

【選択図】なし

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

塩化マグネシウムと硫酸マグネシウムを含有する組成物であって、塩化マグネシウムと硫酸マグネシウムの重量比は 1, 0 : 0, 635 を中心として 0, 2 ~ 0, 9 である人の病気を治療する為又は殺菌剤としてのマグネシウム塩組成物。

【請求項 2】

水に塩化マグネシウムと硫酸マグネシウムの重量比が 1, 0 : 0, 635 の割合になるように原料を溶解した後、ソフトカプセル等に詰めたりする、人の病気を治療する為又は殺菌剤としてのマグネシウム塩組成物の製造方法。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、人の病気を治療する為又は殺菌剤としての塩化マグネシウム 1, 0 に対し硫酸マグネシウムの 0, 635 を中心として 0, 2 ~ 0, 9 の比率範囲に混合した組成物及びその製造方法に関する。

【背景技術】**【0002】**

海水中には、塩化ナトリウムの他に塩化マグネシウム塩と硫酸マグネシウム塩が組成物として含まれているが、従来は組成物のそれぞれを単剤として研究して来た。

【0003】

しかしながら、発明者は、組成物そのものが不思議な効果を有する事を発見した。港湾中の突堤上に海水がかかっているが、乾燥しても塩類が全く見当たらないこと。また広い海水浴場の乾いた砂浜に塩類が全く見られないこと。等々

【0004】

又、ウイルスが、武漢の方から雨に乗って香川県を渡り兵庫県及び日本全国に降っているが、淡路島、小豆島、佐渡ヶ島には感染者が出ていない。遠く離れた太平洋の島国にもウイルスの雨が降っているが、感染者が居ない。

【0005】

これ等のことは、海水中の 2 種類のマグネシウム塩組成物が常識では全く考えられない比率に存在することが原因と見ることが出来る。また、海水は苦くもなく、多量に飲んでも下痢をしない生理作用でも単剤と変化している。

【先行技術文献】**【0006】**

調査したところ、本発明のマグネシウム塩組成物に関連する先行技術文献は存在しなかった。

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0007】**

マグネシウム塩は単剤及び後から単剤を混合して殺菌効果の相乗効果を期待した文献は多々あるが、漫然と混合しただけでは著しい効果は判明されず、結局のところ、塩化マグネシウムは「食品添加物のニガリ」であり、硫酸マグネシウムは「医薬品の下剤」として認められているに過ぎない。

【課題を解決するための手段】**【0008】**

本発明は、マグネシウム塩組成物を、人間の常識では考えられない海水中と同様の比率に製造し、それを服用して、治療試験を行なった。その結果、人の病気を治療する著しい効果を確認、また製造方法を提供するものである。

【問題を解決するための手段】**【0009】**

本発明の治療試験には、市販薬の単剤を用いて組成物を製造し、検体として用いた。

10

20

30

40

50

水 1000 ml 中に塩化マグネシウム六水和物 7, 0 g と無水硫酸マグネシウム 2, 1 g を溶解させて、海水中の濃度と同様に製造して用いた。この場合、塩化マグネシウムと硫酸マグネシウムの比は 1, 0 : 0, 635 となり、海水中の濃度と同様である。

【0010】

被験者は発明者本人(92歳男性)が偶々胃腸薬のH₂ブロッカー(ガスター20)を飲み過ぎて「胃酸が出ない無酸症」になり背中に鈍痛を感じ、CEAは9,6となり、喉に痰が出て腸間膜内の炎症を示すウイルス性の風邪の症状が出た。風邪薬や希塩酸の服用では回復しなかったので、前記マグネシウム塩溶液を服用した。

【0011】

前記の液を食間に1日3回、1回当たり30mlを28日間服用した。

10

【発明の効果】

【0012】

その結果、背中の鈍痛が消え、微熱は下がり、咳、痰など風邪の症状は完全に消失し、更に大腸の動きが良くなり、便秘が解消し、胃下垂が正常になった。意外にも補聴器の聞こえが良くなり、またドライアイ気味の眼が正常になった。

【0013】

この事から、聴覚神経及び視覚神経を回復させる機能が認められた。更には味覚神経及び嗅覚神経をも回復させる機能があると考えられる。

【0014】

別に上記水溶液を増量し60ml服用して歩いていると、突然ベタ足が大股歩きになり、踵から踏み出す若者の歩き方になったので、驚く事に神経と筋肉を弛緩させる作用があると思われた。

20

【0015】

従って、パーキンソン病、ALSなど難病にも効果が有り、正に神が人類に対し海水中に用意された万能薬と拝察している。

【0016】

また、以前に肺のCT検査で、嚢胞が多発し、長期喫煙による肺泡破壊と消失が見られると、診察された。ところが、最近のレントゲン撮影では、全体が黒くなり完治したので、肺の重篤な病気の予防になると思われる。

【0017】

更に、湿気のあるところに保管していた革靴にカビが生えたので、上記水溶液を塗布したところ、アルコールでは再発生したが、この液では全くカビが生えず、殺菌作用を観察した。

30

【発明を実施するための形態】

【0018】

本発明のマグネシウム塩組成物を医薬品として製造するには、原料として市販品を使うことが出来る。市販品を使って次の2例で製造できる。1及び2共にMgCl₂:MgSO₄は、1,0:0.635である。

1 塩化マグネシウム六水和物:210,00mg

無水硫酸マグネシウム:62,49mg 計272,49mgの水溶液

40

を適宜ゲル化して、300~400mgの楕円形ソフトカプセルにする。1カプセルは上記試験液の30mlに相当する。

2 塩化マグネシウム六水和物:210,00mg

硫酸マグネシウム七水和物:127,96mg 計337,96mgの水溶液

を適宜ゲル化して、400~500mgの楕円形ソフトカプセルにする。1カプセルは上記試験液の30mlに相当する。

【0019】

子供に対しては、上記の半量を、より小さな適当なソフトカプセルにすれば良い。

【0020】

錠剤、顆粒剤、粉剤は高濃度組成物を噴霧乾燥して原体とするか、或いは乾燥添加物を加

50

えて製造出来るが、無水の状態で効力が、同等か否か試験する必要があるので、当分の間避ける。

【0021】

自然に存在するマグネシウム塩組成物の有効例として、三重県山奥の湧水が美味しくて、腐らない、と地元の人が発言している。

【0022】

富山県の山奥の湧水が、美味しくて、料理に使用し、また麓から来て湯治に1ヶ月通って膠原病を治した、との発言から、浴湯及び茶飲み話に飲んだ茶のマグネシウム塩組成物の効果と思われる。

これ等の山地に含まれる橄欖石等の、マグネシウムは、全て組成物の形で存在するのであろう。

10

【0023】

コロナウイルスの雨に対してもマグネシウム塩組成物が有効で、各県の感染者数を春から冬まで調べているが、秋田県や鳥取県は、地形が同じく少ない。岩手県は海水浴場が多く、感染者は気温が高いと少なく気温が低い冬に多くなる。秋田県や鳥取県も同様の傾向である。この事からマグネシウム塩組成物は揮発性があり、冷温になると、それが低下すると、考えられる。

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図1】 海水中のマグネシウム塩の存在比。

20

【図2】 感染者の本邦第1号とされる和歌山県の武漢からの雨雲の気象衛星の画面。

【図3】 感染者が確認されていない国

【図4】 2020年6月25日の気象衛星の画面と国内の感染者

【図5】 2021年1月23日の気象衛星の画面と国内の感染者

【図1】

海水 カ ラ ー

出典:フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

海水(かいすい)とは、海の水のこと^[1]。水を主成分とし、3.5%程度の塩(えん)、微量金属から構成される。

地球上の海水の量は約13.7億 km³で、地球上の水分の97%を占める。密度は1.02 - 1.035 g/cm³。

「海水塩」も参照

目次

- 構成成分
- 塩分
 - 塩分と生物
- 炭素循環
- 用途
- 汚染
- 脚注
- 関連項目
- 外部リンク

構成成分

海水の塩分濃度は測定的位置により一様ではないが、塩分の構成についてはほぼ一定である。

- 水 96.6%
- 塩分 3.4%

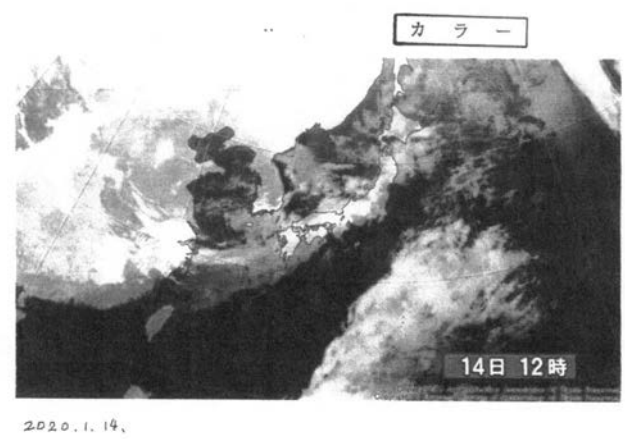
この内、塩分は、

- 塩化ナトリウム 77.9%
- 塩化マグネシウム 9.6% *海水中の0.926%*
- 硫酸マグネシウム 6.1% *海水中の0.207%*
- 硫酸カルシウム 4.0%
- 塩化カリウム 2.1%
- その他

となっている^[1]。

$$\frac{6.1}{9.6} = 0.6354$$

【図2】

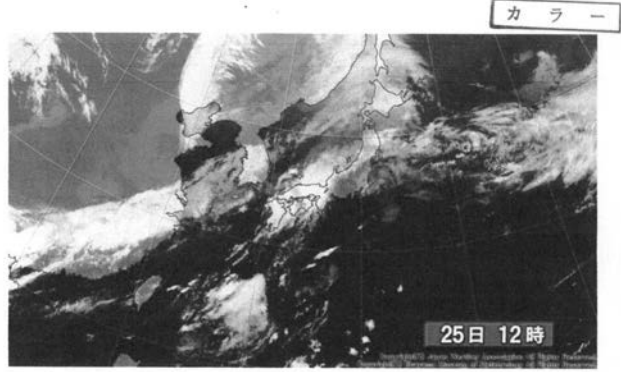


【図3】



日本では淡路島、小豆島、佐渡ヶ島（本州からの人以外）は、感染者が出ていない

【図4】



2020.6.25

国内での増加数

北海道	1204 (+5)	大阪府	1814 (+2)
青森県	27	兵庫県	705 (+1)
岩手県	0	奈良県	87
宮城県	92 (+1)	和歌山県	84
秋田県	15	徳島県	3
山形県	69	香川県	24
福島県	82	高松県	26
茨城県	66	山口県	164
栃木県	172 (+2)	徳島県	36
群馬県	66	愛媛県	6
埼玉県	152	高知県	6 (+1)
千葉県	1088 (+16)	福岡県	28
東京都	938 (+4)	佐賀県	82
神奈川県	5997 (+54)	熊本県	74
新潟県	1447 (+7)	大分県	60
富山県	33	宮崎県	837
石川県	83	鹿児島県	45
福井県	227	沖縄県	17
山梨県	300	東京都	48
長野県	122	東京都	17
岐阜県	73 (+2)	東京都	17
静岡県	77	東京都	17
愛知県	136	東京都	142
岐阜県	79	東京都	142 (+6)
愛知県	519	東京都	149
岐阜県	44	東京都	149
愛知県	101	東京都	149
岐阜県	370 (+4)	東京都	14

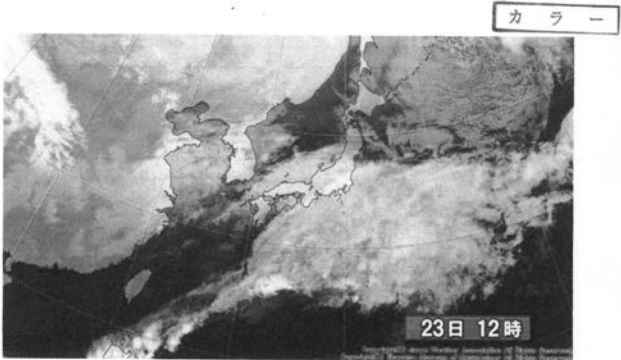
チャーター機 14

計 1,8862人 (+105) 971

計 1,7050人 (+72) 計 1,68974人 (+105)

死者 35人

【図5】



2021.1.23.

国内での増加数

北海道	176672 (+64)	大阪府	1988 (+31)
青森県	677	兵庫県	757 (+15)
岩手県	489 (+1)	奈良県	471 (+2)
宮城県	3264 (+24)	和歌山県	175388 (+178)
秋田県	244 (+6)	徳島県	292 (+28)
山形県	458 (+1)	香川県	992 (+17)
福島県	1610 (+29)	高松県	196 (+5)
茨城県	4365 (+46)	山口県	242
埼玉県	3556 (+29)	徳島県	2227 (+8)
千葉県	3504 (+23)	愛媛県	4618 (+23)
東京都	273341 (+38)	高知県	1066 (+4)
神奈川県	270632 (+328)	福岡県	363 (+4)
新潟県	973696 (+88)	佐賀県	598 (+4)
富山県	378020 (+54)	熊本県	840 (+5)
石川県	845 (+7)	大分県	823 (+5)
福井県	947 (+4)	宮崎県	175038 (+224)
山梨県	1422 (+6)	鹿児島県	697 (+13)
長野県	879 (+4)	沖縄県	1406 (+13)
岐阜県	2184 (+29)	東京都	3224 (+42)
静岡県	3843 (+29)	東京都	1042 (+10)
愛知県	4861 (+51)	東京都	1727 (+2)
愛知県	272649 (+184)	東京都	1329 (+5)
愛知県	1992 (+24)	東京都	7012 (+78)

チャーター機 14

計 367,6363人 (+3890)

計 67,4662人 (1007) 計 1,68974人 (+105)

死者 5133人 (+56)